

開教

Kaikyo

HONEN BUDDHISM

JAPAN, HAWAII, NORTH AMERICA, SOUTH AMERICA, BRISBANE, PARIS

Volume
35
HONEN BUDDHISM
2017

浄土宗開教振興協会
会報〔開教〕



ファーストステップ保育園 5周年

ヒロ明照院アパート
第1棟完成

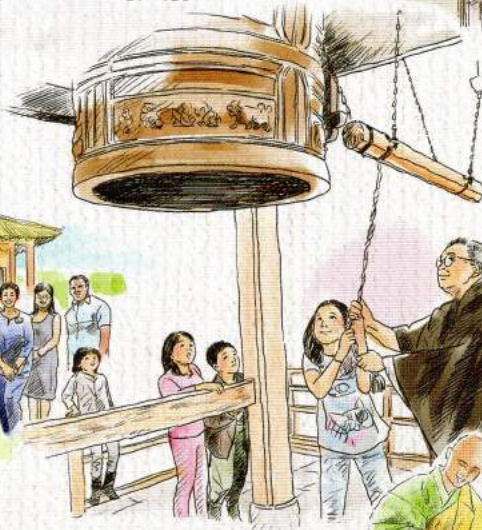
ハワイ
開教区

ハワイ開教区開教使・
開教助員研修会

浄土宗ハワイ開教区
開教総監就任のご挨拶

北米
開教区

北米開教
活動報告



南米
開教区

浄土宗南米開教65周年

オーストラリア
開教地

高齢者と
子供を対象とした活動

フランス
開教地

浄土宗ヨーロッパ仏教センター
創立10周年を迎えて

国内開教
通信

茨城県小美玉市 清浄院
沖縄県豊見城市 聖蓮寺



浄土宗
Jodo Shu
Buddhist Densetsu

国内
開教通信

茨城県小美玉市 清浄院

国内開教使 清浄院住職
堤 忠春

定期的に行なわれている詠唱勉強会の様子 ※90歳をこえる方も熱心に学んでおります



堤 忠春師

国内開教使を志した動機

誰にも心あたりがあると思います。自分というものが形成されてゆくところに「自分とは何だろうか」「自分の生き方は正しいのか」等、思い耽る時期があったかと思えます。今になって考えれば、私の場合その時間が人より長かったのだと思います。

ある時、義父(住職)が、朝のお勤めをしていると聞いて一緒にお参りをさせていただきました。真冬の境内に諸堂、石仏を小走りで廻り拝み、鐘を打ち鳴らし、仏を拝む姿が何とも清々しく感じたのです。「これだ!!」という琴線にふれ、出家の門をたたきました。

修行の場は浄山道場です。

道場を満行するころには、お坊さんとして必要な素養が驚くほどに身につきました。しかし、私はお寺出身ではありませんから主として歩める場所がありませんでした。

国内開教使の存在は知っていません。「お寺を造れる? 聞くだけ聞いてみるか」という事で、平成15年ごろに浄土宗東京事務所(現・浄土宗事務庁)へ訪庁しました。出迎えてくれたのは当時担当者の橋下さんです。明るく熱心に話をしてくれた記憶があります。とても良い話でしたが、何もない状況ではお寺は建てられない。ただ、この地域はお寺が少なく、法事を求めている声も聞えていたので、何とかならないかと感じてはおりました。

今回、ご縁を頂くきっかけとなったのが、元国内開教使、林海庵住職笠原泰淳先生の存在です。

笠原先生は10年以上前にも進路について相談のつてくださいました。今回、笠原先生はこう仰いました。「人さまの宗教心を支えさせて頂く、これは何

と申しまして一番のやりがいです。私もこの道を歩んできて本当に良かったと思っております」と、正直、私も不安はありましたが、笠原先生のそのお言葉に、僧侶としての使命感を強く感じ、これまでのご縁や経験を生かし、開教使として人さまの宗教心を支えたいと思ったのです。

現在の活動状況

国内開教寺院は地域とどのような関わってゆくべきか!? 方向性が重要なカギになります。清浄院の場合、一般寺院のようにには行きませんから、法事だけではなく、心のケアができる場所として、お寺での相談援助等が出来るようにと取り組んでいます。

また、詠唱の普及にも力を入れております。私は浄山道場時代に、当時の詠唱教導司の故鶴田定伸先生に師事しました。師から教司を目指し後進の指導をとお言葉を頂き、後に様々な先生方からのご指導を



お念仏と小法話の会



滋賀県の古刹寺院からお迎えした『清浄院』のご本尊

賜り、一級詠唱教司になることができました。師達から学んだ事が今まさに生かされはじめるようとしています。

また、清浄院は檀家ゼロからのスタートなので、多くの人に知ってもらわなければなりません。時間があるときには、近所や開教地域を歩き「お寺が出来ました」とごあいさつしています。

将来の展望

茨城は海外開教使としての先駆者でもある淑徳大学創設者、長谷川良信先生出生の地でもあります。良信先生はセツルメント事業といつて当時、日本の荒れ果てたスラム街に「マハヤナ学園」という孤児院（児童養護施設）を開設されました。

貧困に苦しむ子ども達を救い、女性に学問を教えました。良信先生は沢山の人々を救っていったのです。

私は仏教の他に心理学と社会福祉学を学びました。両者に共通して言える事は、生身の人間

の役に立つ学問ということですが、福祉用語には「受容」や「アウトリーチ」という言葉があり「受け入れて取り込む」「手をさしのべる」という意味があります。あれ!?これって!!そうです。仏教です。おそらく心理学や社会福祉学は宗教から来ているものではないかと考えられます。

いつの時代においても人間の悩み、苦しみは変わらないという事です。同時にその問題を解決しようとする考え方が必ず生まれるわけです。

宗教心をささえる事は、見えないものを信じる事と同様に、人間の心のあり方を知ろうとする事、己を知ること、苦しみや執着から少しでも解放されて行こうという宗教的な問いかけに繋がる事だと思っています。

また、偉大な先達のように行きませんが、清浄院に来て良かったと言ってもらえるような居場所にしてゆけたらと考えております。

最後に、法然上人は『予が遺跡は、諸州に遍満すべし』と仰っております。清浄院は出来たての



福祉施設での集立ちの会（お別れ会）

小さいお寺ですが、ここも遺跡地なのです。法然上人のそのお言葉がありがたく受け止め、お念仏の声がいつまでも絶えることのない場所にしてゆきたいです。

